



第27号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所  
靈 龜 山 九 島 禅 院  
〒550 大阪市西区本田3丁目4-18  
☎06-583-2725  
発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

# 横綱 若乃花誕生

## 百尺竿頭に一步を進め

三代目

大相撲夏場所で優勝した大関若乃花が横綱審議会の推薦を受け、第六十六代横綱に昇進しました。史上初の兄弟横綱が誕生し、低迷が続く大相撲人気回復への起爆剤にと期待が集まっています。

身長一八一センチ、体重一一一キロ、今場所での幕内力士の中でも五番目の軽量力士である小兵が、屈指の稽古熱心と相撲にかける情熱で、横綱をつかみとりました。

「堅忍不拔(けんんにんふばつ)の精神で精進します」との横綱昇進の伝達での口上は、我慢強く耐え忍ぶという意味で、小兵というハンディ、場所中に傷めたひざをかかえつつ、横綱の重責を負うこととなった新横綱の悲壮な決意を示したものとと言えるでしょう。

相撲の世界では、たとえ実父であっても親方、母親をおかみさんと呼び、師匠と弟子の関係は厳しいものです。禅の世界も同じで、師匠と弟子の関係は厳格で、禅家の師匠は、手をとっ

て教えません。常に弟子は師匠から奪い取るようにして学ばなければなりません。師匠と弟子の関係は、しばしば「碎啄の機(そつたくのき)」とよばれます。卵の内部から、雛が殻を破ろうとつつくのを碎(そつ)、親鳥が呼応して外からつつくのを啄(たく)といいます。タ、イミングが合わないとは雛は死んでしまいます。「碎啄の機」といわれるタイミングが、生命の誕生にも、禅の修行にも極めて大切なのです。過保護に、あまり早く教えるても、形式を覚えるだけで、一向に身につかず、また依存心ができて応用力が身につきません。といって、自分で会得するものだと言調するあまり、放任主義でも、できの悪い自己流の人間になってしまします。

いろいろな自分で苦勞してみても、あと一步というときに、ちよつとヒントを与えてやれば「ああそうか」と大事なポイントに気づきます。そうして得たポイントは一生涯忘れないし、類似の諸

問題を一挙に片づけることができるのです。

よい師匠というのとは、そういう「碎啄の機」をつかんでヒントを与えるのがうまい人で、よき師匠に恵まれることが大事なのです。評論家の草柳大蔵さんは、よき師匠とは「顔を合わせたり、そばを通っただけで、おそろしい感じのする先生」つまり「師匠とは、弟子がそう感じるだけのものを持ち合わせていなければ本物ではない」と言っておられます。いい得て妙だと思えます。

二子山親方というよき師匠に恵まれ、不断の努力で「碎啄の機」をつかんだ横綱若乃花ですが、その土俵入の不知火型に負けない攻めの相撲をとって、禅語でいうところの「百尺竿頭に一步を進む」精神で精進してほしいものです。道を求める者に終着点はないのですから。



27日、東京都中野区の子二山部屋

大阪にオリンピックを！  
九条に中華街を！  
二十一世紀まであと二年！

